

21 世紀の私達・君達へ

中央区立佃中学校 1年 秋元 温貴

地球では今何がおきているのだろうか？バングラデシュで同じ歳くらいの少女が茶色く濁った水を遠い道のりのなか毎日くんでいるというCMが流れていた。記録的な熱波により地中海沿岸で大規模な山火事が発生している映像、日本では同じく異常気象による水害のニュースが流れている。私が暮らしている東京に目を向ければ、毎日コロナの感染者数が増えており制限の多い生活が続いている。

こうしたなか、今自分に何ができるのだろうか？あの少女はなぜ水をくまないといけないのか？そもそも水の惑星の地球なのになぜ水不足になるのか疑問を感じ、自由研究で以前に調査研究をした。研究を通して考えるようになったことは、いくら技術が進歩してもそれだけでは解決はしない、一人一人が正しい知識を持ち問題に向き合い考えていくことが重要ということだ。水不足につながる地球温暖化を食い止めようと努力する人々がいる一方で、農地開発や無理な焼き畑農業など生活の為に問題を知らないうちにより加速させている人々もいるということが問題なのだ。

私は2歳から6歳まで中国の上海で生活をしてきた。私が住んでいた場所は高級店が並ぶ都会だったが、一歩そこを離れれば物乞いをする足のない人や、汚い環境の市場などで汚れた服を着て学校にも行っていないような子供達の姿を目にした。路上にはプラスチックゴミなどがあふれていた。そこには彼らの「今」があり「今」しかなかった。生きるために必死な中で地球温暖化問題など知る由もないだろう。皿を洗う水や余裕がなければポイ捨てできる手軽に手に入るプラスチック製品を使うのは当たり前だ。誰もそうした人々を責めることはできない。なぜなら彼らは「今」を必死に生きており、危機に直面している地球の未来など想像すらしていないからだ。こんな中で地球の新たな未来を救えるはずはない。本当の解決の為に、みんなが知識を持つことが重要なのだ。例えば1000個の問題があってもその問題を一人で解決するよりも1000人で解決した方がずっと簡単だ。世界中の人々で知識を共有し問題に向き合っていくことが大事なのだ。その為に今自分ができることの一つとして、環境問題がわかる絵本を現地語に翻訳して送るボランティアに参加した。この絵本はカンボジアなどの難民キャンプに送られる。私が翻訳した絵本を手に取り読んだ子供達が知識を得て、地球の新しい未来の事を考えるきっかけになればとても嬉しい。一つのきっかけが大きな未来につながると信じている。

地球は今、豊かさや便利さと引きかえに様々な問題を抱えている。今こそが立ち止まり地球を救う最後のチャンスなのだと思う。そして新しい未来を築いていくのは他でもない私達だ。21世紀の私達君達のために。これからも様々なことにアンテナをはりめぐらしながら、今自分に何ができるかを考え行動していきたい。未来の私達の地球のために。